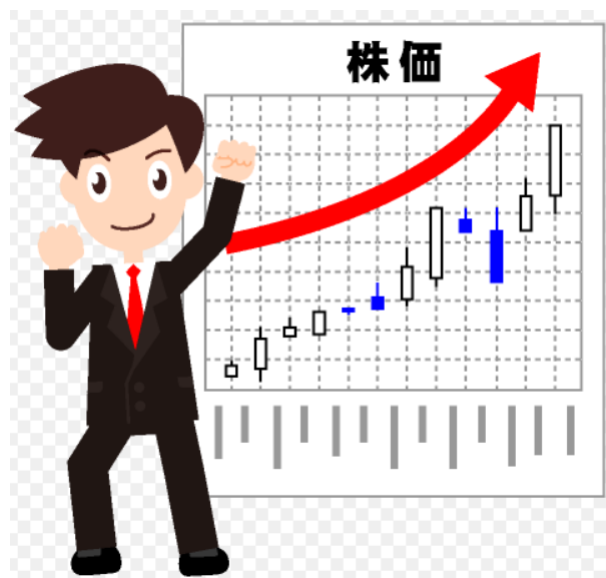


ETFの安全な信用取引 (リスクなしで儲ける方法はあるか？)

改版2021年10月18日



指標に連動したETF(＋ETN)の種類

指標の動きと連動したETFがある。

大きく以下の種類がある。

1. 同じ方向に動くETF(ブル)

1) 1倍(同じ率)で動く (原指標が10%上がればETFも10%上がる。)

例: (NEXT FUNDS)日経225連動型上場投信

2) 2倍の率で動く(ダブル、レバレッジ、2倍などの名前が付いている。

原指標が10%上がれば、ETFは20%上がる。)

例: NEXT NOTES ドバイ原油先物 ダブル・ブル ETN

(NEXT FUNDS)日経平均レバレッジ上場投信

2. 逆の方向に動くETF(ベア)

1) 1倍(同じ率)で逆に動く (原指標が10%上がればETFは10%**下がる**。)

例: (NEXT FUNDS)日経平均インバース上場投信

2) 2倍の率で逆に動く(ダブル、レバレッジ、2倍などの名前が付いている。

原指標が10%上がれば、ETFは20%**下がる**。)

例: 日経平均ベア2倍上場投信

指標を基準にしたETF・ETNの値動き(1)

◇2倍の率で動くETF(ダブル、レバレッジ、2倍など)

これは完全に発行証券会社が儲かる仕組みになっている。

きちんと発行証券会社がリスクの説明書を出している。従い購入者が理解していないで購入するのが悪い。

数値とグラフで次ページ以降に示す。

◇間違えやすい感覚？

★当然ダブルと明記しているので原指標のダブルで動く。

これが何故怪なのか？ 直観と違う??

原指標が元に戻れば株価も戻るとしてしまう。

⇒これが間違い！

長期で持っていればどんどんETF株価は原指標に関係なく下がる。

★ブル型2倍は長期に持っていると原指標が変わらないでも損害が増える。

↓と言うことは

逆にベア型2倍を長期に持っていれば原指標が変わらないでも益が出るのでは？

↓ **はずれ**

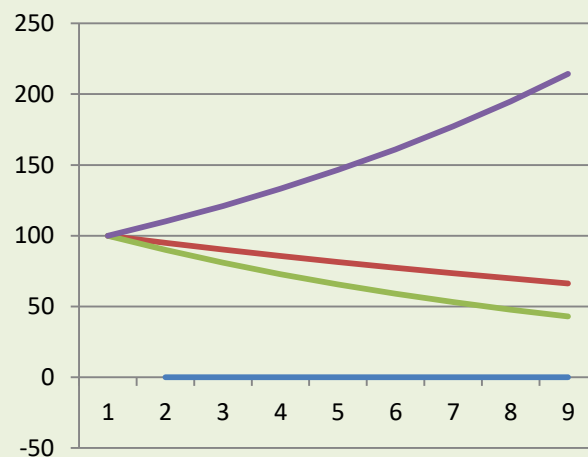
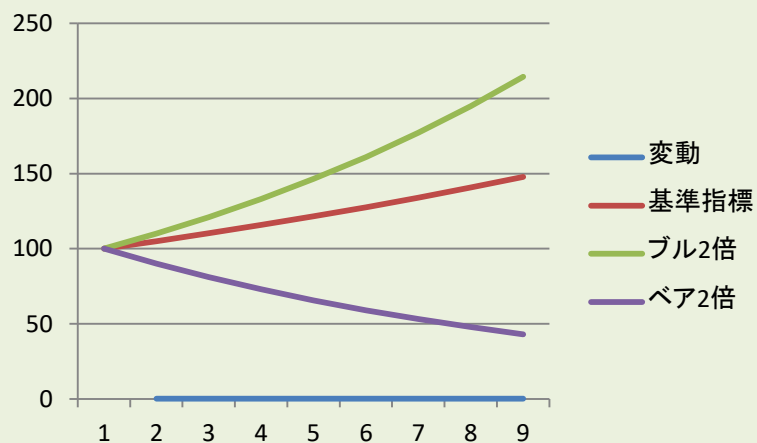
ベア2倍も長期で保持していれば必ず、ETFは目減りする。

しかも、ブルと比べてベアの方が目減りは激しいのである。

原指標とダブルETF・ETN株価の関係は？(1)

変動	基準指標	ブル2倍	ベア2倍
	100.0	100.0	100.0
5.0%	105.0	110.0	90.0
5.0%	110.3	121.0	81.0
5.0%	115.8	133.1	72.9
5.0%	121.6	146.4	65.6
5.0%	127.6	161.1	59.0
5.0%	134.0	177.2	53.1
5.0%	140.7	194.9	47.8
5.0%	147.7	214.4	43.0

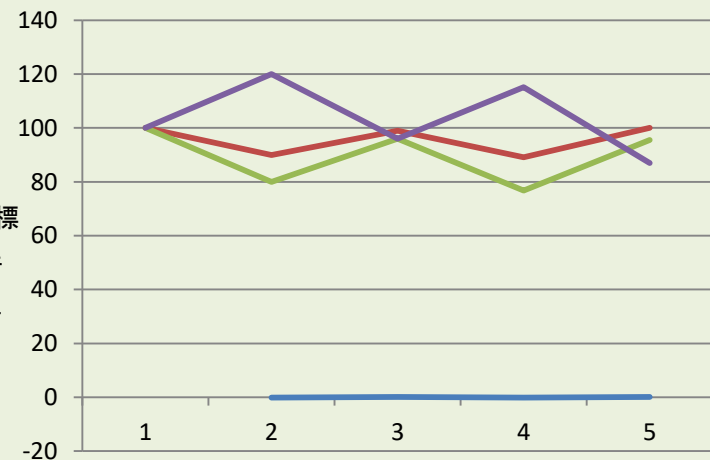
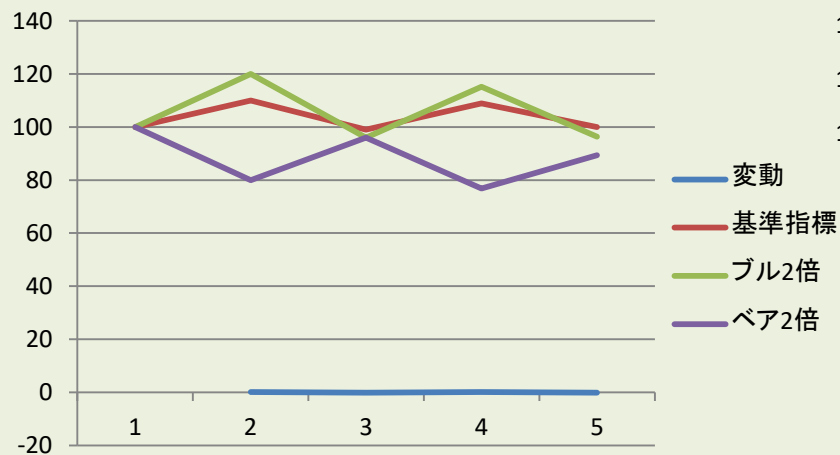
変動	基準指標	ブル2倍	ベア2倍
	100.0	100.0	100.0
-5.0%	95.0	90.0	110.0
-5.0%	90.3	81.0	121.0
-5.0%	85.7	72.9	133.1
-5.0%	81.5	65.6	146.4
-5.0%	77.4	59.0	161.1
-5.0%	73.5	53.1	177.2
-5.0%	69.8	47.8	194.9
-5.0%	66.3	43.0	214.4



原指標が元に戻ったときのダブルETF・ETNの株価は？（2）

変動	基準指標	ブル2倍	ベア2倍
	100.0	100.0	100.0
10.0%	110.0	120.0	80.0
-10.0%	99.0	96.0	96.0
10.0%	108.9	115.2	76.8
-8.2%	100.0	96.4	89.4

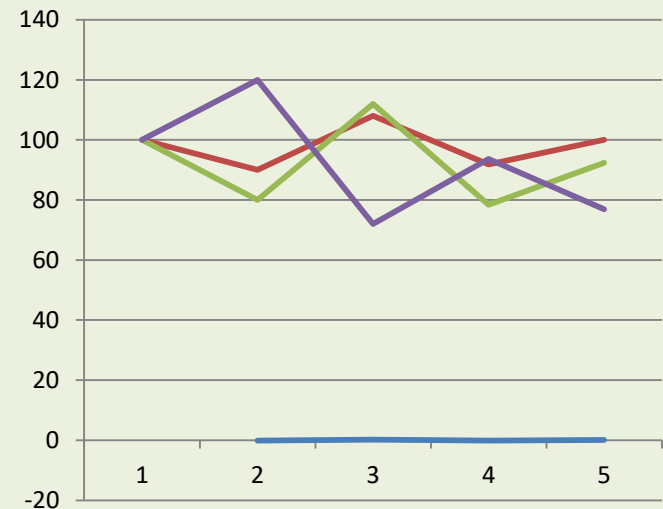
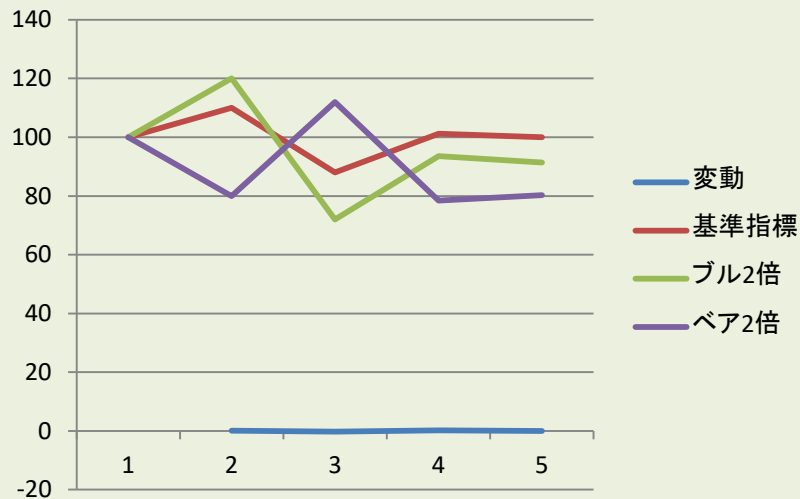
変動	基準指標	ブル2倍	ベア2倍
	100.0	100.0	100.0
-10.0%	90.0	80.0	120.0
10.0%	99.0	96.0	96.0
-10.0%	89.1	76.8	115.2
12.2%	100.0	95.6	87.0



原指標が元に戻ったときのダブルETF・ETNの株価は？（3）

変動	基準指標	ブル2倍	ベア2倍
	100.0	100.0	100.0
10.0%	110.0	120.0	80.0
-20.0%	88.0	72.0	112.0
15.0%	101.2	93.6	78.4
-1.2%	100.0	91.4	80.3

変動	基準指標	ブル2倍	ベア2倍
	100.0	100.0	100.0
-10.0%	90.0	80.0	120.0
20.0%	108.0	112.0	72.0
-15.0%	91.8	78.4	93.6
8.9%	100.0	92.4	76.9



具体的な例(1) ブル型2倍の動き

痛い目に合った: ドバイ原油先物 ダブル・ブル ETN



原指標 (WTI)
実際はドバイ原油だがほぼ同じ

ドバイ原油先物
ダブル・ブル



WTI=50 \$
(ほぼ現在値と同じ)
株は約1/20の270円
(約5年間)
2020年12月時点

具体的な例(2) ベア型2倍の動き



原指標の日経225



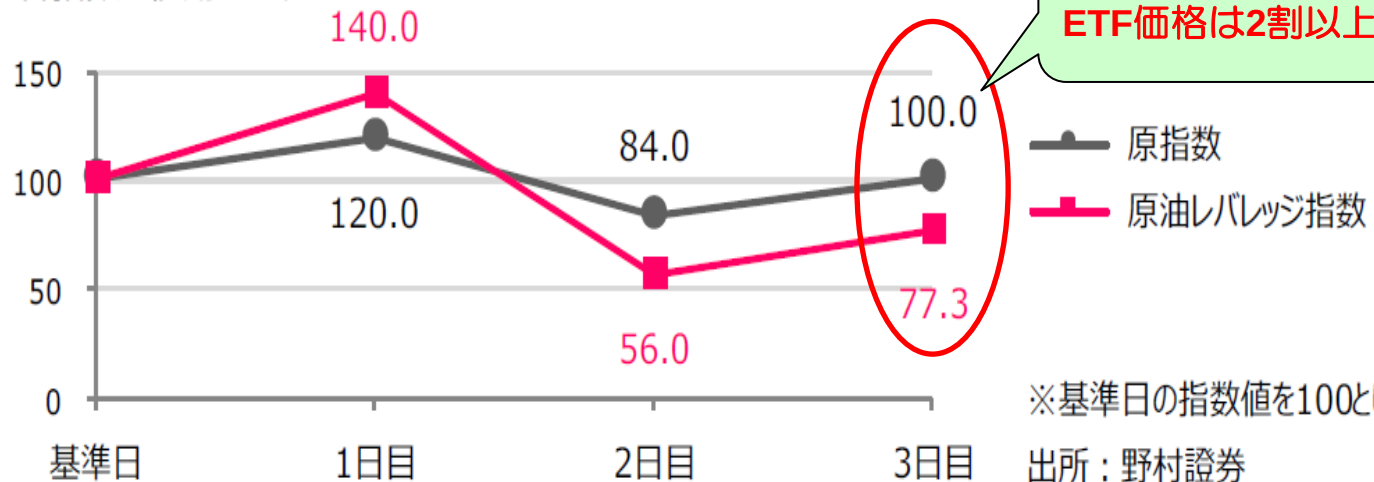
原指標のベア2倍E T F

発行元の野村証券が出しているリスク説明

■ 各指数の騰落率

	前日比 騰落率			基準日からの累積騰落率		
	1日目	2日目	3日目	1日目	2日目	3日目
原指数	20%	-30%	19%	20.0%	-16.0%	0.0%
原油レバレッジ指数	40%	-60%	38%	40.0%	-44.0%	-22.7%

■ 各指数の値動きのイメージ



指標を基準にした1倍ETF・ETNの値動き

◇指標に対して1倍で動くETF

2倍のETFは長期で保持していると目減りするが、1倍のETFは何も問題ない。(目減りはしない)と思ってしまう。

↓ **これも間違い**

次ページ以降に数値とグラフで示す。

結論は；

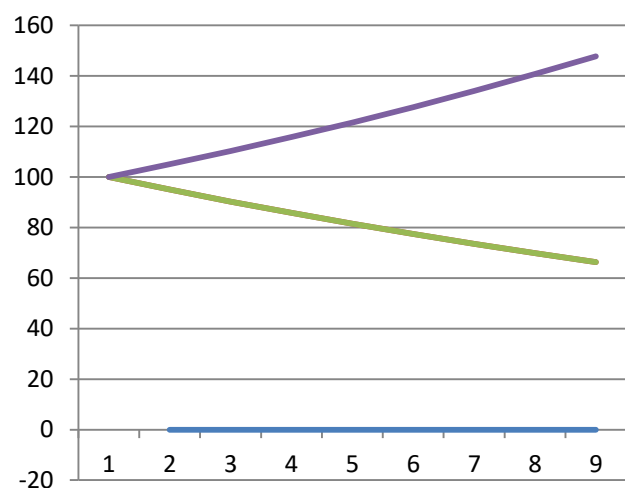
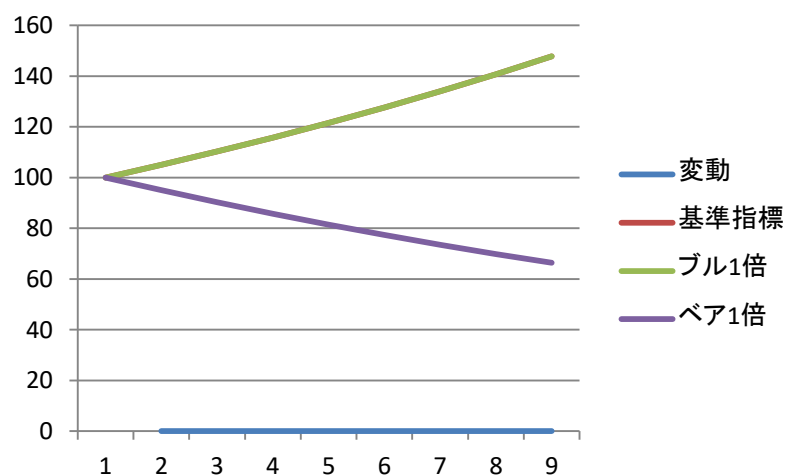
- ・ブルは完全に原指標と連動する。(原指標が戻ればETFも戻る。)
- ・ベアは2倍ほどではないが長期で保持していると目減りする。

原指標と1倍ETF・ETN株価の関係は？（1）

原指標とブル1倍は同じ値
（線が重なっている）
次ページ以降も同じ

変動	基準指標	ブル1倍	ベア1倍
	100.0	100.0	100.0
5.0%	105.0	105.0	95.0
5.0%	110.3	110.3	90.3
5.0%	115.8	115.8	85.7
5.0%	121.6	121.6	81.5
5.0%	127.6	127.6	77.4
5.0%	134.0	134.0	73.5
5.0%	140.7	140.7	69.8
5.0%	147.7	147.7	66.3

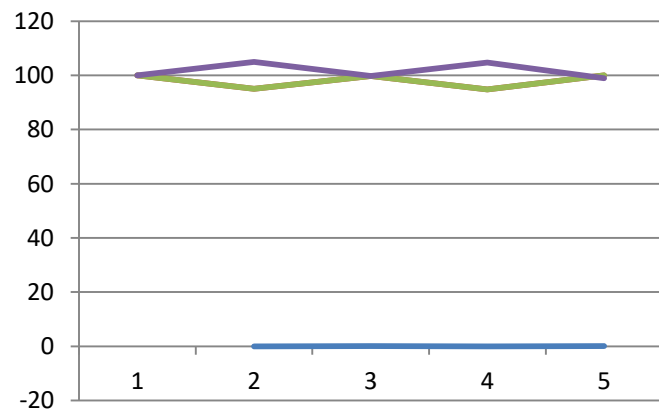
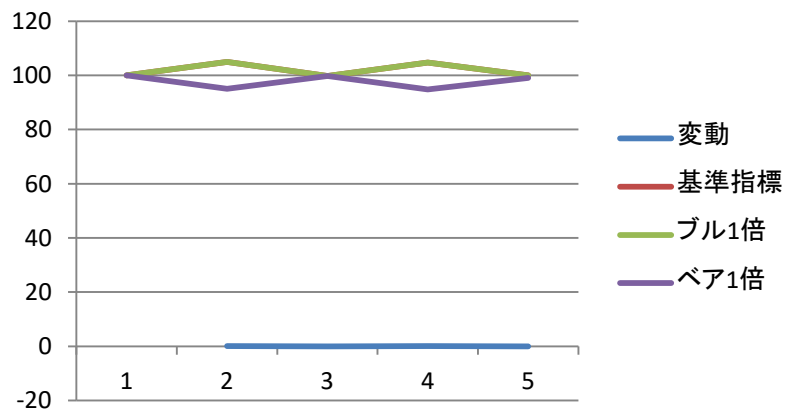
変動	基準指標	ブル1倍	ベア1倍
	100.0	100.0	100.0
-5.0%	95.0	95.0	105.0
-5.0%	90.3	90.3	110.3
-5.0%	85.7	85.7	115.8
-5.0%	81.5	81.5	121.6
-5.0%	77.4	77.4	127.6
-5.0%	73.5	73.5	134.0
-5.0%	69.8	69.8	140.7
-5.0%	66.3	66.3	147.7



原指標が元に戻ったときの1倍ETF・ETNの株価は？（2）

変動	基準指標	ブル1倍	ベア1倍
	100.0	100.0	100.0
5.0%	105.0	105.0	95.0
-5.0%	99.8	99.8	99.8
5.0%	104.7	104.7	94.8
-4.5%	100.0	100.0	99.0

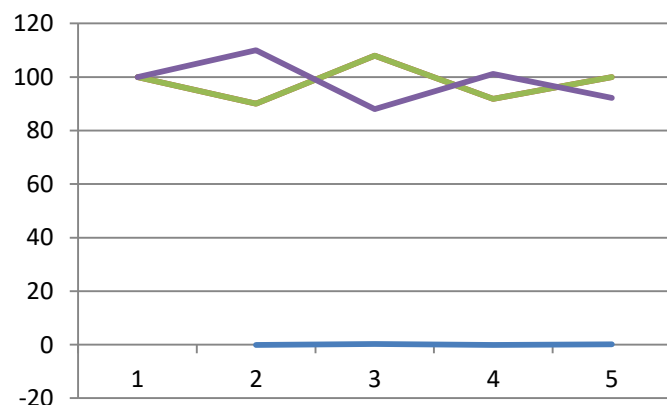
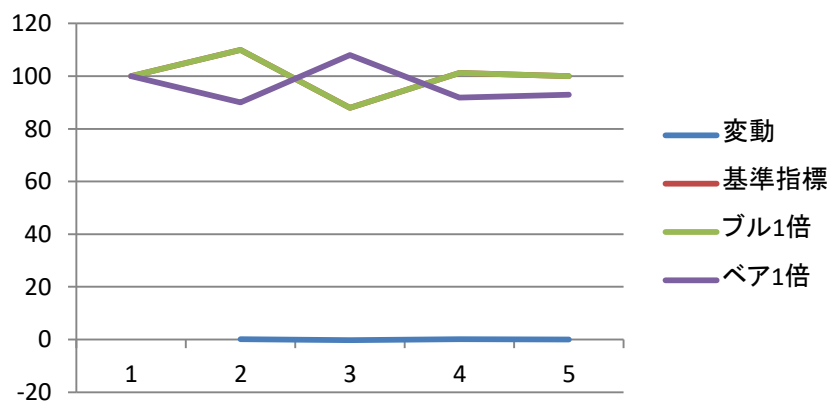
変動	基準指標	ブル1倍	ベア1倍
	100.0	100.0	100.0
-5.0%	95.0	95.0	105.0
5.0%	99.8	99.8	99.8
-5.0%	94.8	94.8	104.7
5.5%	100.0	100.0	98.9



原指標が元に戻ったときの1倍ETF・ETNの株価は？（3）

変動	基準指標	ブル1倍	ベア1倍
	100.0	100.0	100.0
10.0%	110.0	110.0	90.0
-20.0%	88.0	88.0	108.0
15.0%	101.2	101.2	91.8
-1.2%	100.0	100.0	92.9

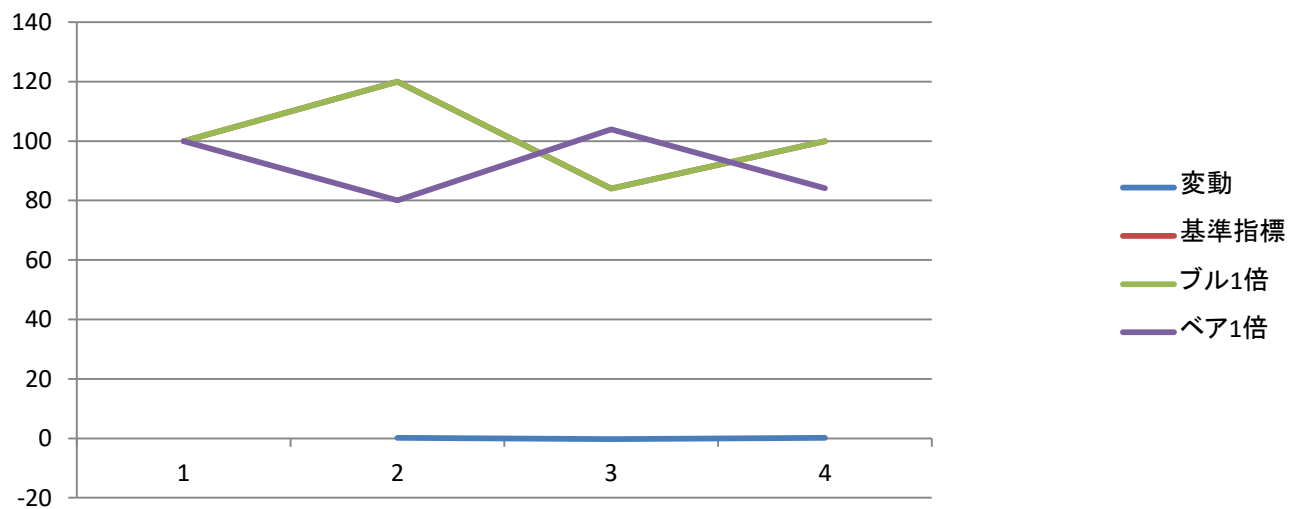
変動	基準指標	ブル1倍	ベア1倍
	100.0	100.0	100.0
-10.0%	90.0	90.0	110.0
20.0%	108.0	108.0	88.0
-15.0%	91.8	91.8	101.2
8.9%	100.0	100.0	92.2



原指標が元に戻ったときの1倍ETF・ETNの株価は？（4）

野村証券のリスク説明で使用した変動率を使用しました。

変動	基準指標	ブル1倍	ベア1倍
	100.0	100.0	100.0
20.0%	120.0	120.0	80.0
-30.0%	84.0	84.0	104.0
19.0%	100.0	100.0	84.2



具体的な例(1) 原指標: 日経平均



原指標
(日経平均)

日経平均ベア



原指標が変わらないのに
約5年間で3,000円から1,800円
に目減りしている

目減りする仕組みを逆に利用できないか？

長く持っていれば必ず損する仕組み

↓ これは言い換えると

信用取引で“**売り**”を長期に持てば必ず儲かる仕組み？

信用取引は保持している間コストがかかる。これを考慮しなければならない。

SBI証券の場合；

- ・信用買い方 買方金利(年率)=2.8%
- ・信用売り方 貸株料率(年率)=1.1%
- ・管理費 10銭/月・株

長期の目減りの率は上記貸株料率を無視で来る程度に大きい。

対象ETFは今まで説明したように；

- ・ブル 2倍の指標連動ETF
- ・ベア 1倍、2倍の指標連動ETF

↓ さらに儲けは少なくともよいがリスクは極力小さくしたい

同じ指標で反対に動くETFを対で購入する。

(通常は馬鹿な方法であるが、必ず目減りするETFの場合はOK)

★このように対で信用取引することによって、指標の動きに対するETFの値動きの影響をゼロにすることができ長期で保有することで目減り分を利益として上げることができる。 万歳！！

★注意：信用取引は必ず“**売り**”である。（“**買い**”をしてはいけない。）

信用取引の具体例(“売り”)

実際の具体例でどうなっているかを検証する。

- ・ 1365：ダイワ 上場投信-日経平均レバレッジ
 - ・ 1366：ダイワ 上場投信-日経平均ダブルインバース
- を同じ量(金額的に)の信用取引“売り”を行った場合

原指標 (日経平均)



日経平均ブル2倍



日経平均ベア2倍



信用取引の具体例(“売り”)の検証(1)

実際の具体例でどうなっているかを検証する。

- ・ 1365：ダイワ 上場投信-日経平均レバレッジ
- ・ 1366：ダイワ 上場投信-日経平均ダブルインバース
を同じ量(金額的に)の信用取引“売り”を行った場合

[円]

	株数	2015年末	2017年末	2019年末	2021.1.14
原指標：日経平均		18,982	22,764	23,656	28,698
1365:ダイワ 日経平均レバレッジ	1株	11,400	16,300	16,500	24,180
1366:ダイワ 日経平均ダブルインバース 正規化株数時の株価	1株	7,880	3,280	2,270	1,175
	1.45 株	11,400	4,745	3,284	1,700
ブル2倍+ベア2倍		22,800	21,045	19,784	25,880



表の通り、ブル2倍、ベア2倍を同じ金額を信用取引“売り”を行っても**結果は損害**である。



頭を使わず(苦労せず)にリスクゼロで儲かる話は無いのである！！

原指標が数年で元に戻った場合は必ず“目減り分”が儲かるが、原指標は上下どちらかに行っている可能性が高い。重要なのは買ったときの原指標値と現在の原指標値の幅である。この幅で利益にもなるが損にもなる。表の例では2019年末までは“益”であったが、大幅に上げた現時点では“損”になっている。

要は頭を使い、原指標が上に行くか？下に行くかを？を考えなければいけない。

又は、原指標が上下しても、最終的に最初の値と変わらないような指標を選ぶことである。

信用取引の具体例(“売り”)の検証(2)

2020年末、2021年7月末時点の指標(日経平均)とETFの株価をまとめた。

日経平均を指標とするETFを調査

2021年8月1日

	銘柄				株価			目減り		手数料
	コード	銘柄名	倍数	順/逆	2020年末	2021年7月末	差分	左記期間	1年換算	
1		指標日経平均			27,444	27,283	-0.59%	-	-	-
2	1357	(NEXT FUNDS) 日経ダブルインバース上場投信	2	逆	494	460	-6.88%	-5.71%		0.880%
3	1358	上場インデックス日経レバレッジ指数	1	順	26,880	26,160	-2.68%	-2.09%	-3.59%	0.778%
4	1360	日経平均ベア2倍上場投信	2	逆	1,202	1,122	-6.66%	-5.48%	-9.40%	0.825%
5	1365	ダイワ 上場投信-日経平均レバレッジ	2	順	22,200	21,750	-2.03%	-0.85%	-1.46%	0.825%
6	1357	ダイワ 上場投信-日経平均ダブルインバース	2	逆	1,287	1,199	-6.84%	-5.66%	-9.71%	0.825%
7	1458	楽天 ETF-日経レバレッジ指数連動型	2	順	16,830	16,470	-2.14%	-0.97%	-1.66%	0.385%
8	1459	楽天 ETF-日経ダブルインバース指数連動型	2	逆	1,965	1,835	-6.62%	-5.44%	-9.33%	0.385%
9	1570	(NEXT FUNDS)日経平均レバレッジ上場投信	2	順	14,450	14,090	-2.49%	-1.32%	-2.26%	0.880%
10	1571	(NEXT FUNDS)日経平均インバース上場投信	2	逆	1,094	1,065	-2.65%	-1.48%	-2.53%	0.880%
11	1580	日経平均ベア上場投信	1	順	2,918	2,839	-2.71%	-2.12%	-3.64%	0.825%

ETFのブルとベアそれぞれ1倍と2倍の目減り計算した結果、**原指標がほぼ変わっていないのに全てのベア2倍のETFは例外なく、年間の目減りが約10%である。**

リスクゼロの投資はできないが、1年間の投資で考えると；

今後の読みとして日経平均が上がると考えているときにベア2倍ETFを信用で売る。

ケース1：予想通りに日経が10%上がった場合→2倍なの20%+目減り分10%=30%の利益

ケース2：日経平均が動かなかった場合⇒0%+目減り10%=10%の利益

ケース3：逆に日経が10%下がった場合→2倍なので-20%+10%=-10%の損害

心配な場合は同時にブル2倍を信用売りしておけば上記の利益。損害の幅を小さくできる。

(リスクを小さくできる=当然利益も小さくなる。)